

臨床検査技師の魅力を伝える ～日臨技広報活動～

宮原 祥子

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 執行理事

新型コロナウイルスの流行を乗り越え、臨床検査技師は知名度が上がったに違いないと臨床検査技師である皆さんはきっと思っているであろう。市中病院でウイルスの遺伝学的検査を実施する体制を整え、防護服に身を包んで検体を採取し、膨大な検査をこなし、果てはワクチン接種まで職域を超えた活動を行った。しかし、令和5年度日臨技が行ったアンケートの結果、臨床検査技師の名前と仕事内容がわかると回答した方は22.7%であった。もちろん私たちは誰かに知られるために検査をしているわけではない。しかし、日臨技は臨床検査技師の未来を担う職能団体である。将来の職業として子供たちに臨床検査技師を選択してもらうため、臨床検査技師の未来を繋ぐ政策要望を届けるためには「国民に臨床検査技師という職種を知ってもらうこと」は重要である。そこで令和5年度、事務局内に新たに広報担当部門を設置、事務員1名を配置し日臨技広報の一元管理、調査や提案のための資料作成などを行う体制を整えた。広報活動には2つの方向性がある。一つは広く国民に臨床検査技師という職能を知っていただく「対外的な広報」、そしてもう一つは日臨技会員に、自分の所属する一般社団法人日本臨床衛生検査技師会という職能団体が、どのような活動をしているかをお知らせする「会員向け広報」である。会員向け広報としては、・会報JAMT(毎月2回ホームページに掲載)・JAMTマガジン(医学検査に同梱冊子として配布)・ホームページでのお知らせ等を行っている。ホームページでは、全国学会のお知らせ、タスクシフトシェアに関する厚生労働省指定講習会の申し込み、能登半島地震の災害対応の記録など、目にしていただきたい内容はホームページのトップで紹介している。国民向けに行っているいままでの主な広報活動は、・季刊誌pipetteの配布・全国検査と健康展の全国展開・中高生向けガイダンスなどがあり、季刊誌pipetteは主に会員が所属する施設や、全国検査と健康展の開催時に配布している。全国検査と健康展は日臨技が費用助成を行い、都道府県技師会に共同開催をお願いして展開している活動で、1か所の中央会場と、手上げして下さった都道府県の地方会場で11月を中心に展開している。将来の仕事についての情報提供としての中高生向けガイダンスは、主に支部学会での併設開催をしている。広報担当部門では、令和5年度はまず国民向け広報の拡大を行うことにした。臨床検査技師の新しい働き方を政策提言している今、まず広く認知度を上げることが、優先課題と考えられたためである。

令和4年度までの活動に加え、令和5年度は新たに、臨床検査技師の認知度調査・雑誌Wedgeへの広告掲載・日臨技活動のプレスリリース・Medical Tribuneの取材・「臨床検査技師を名のろう」ポスターを会員に公募・臨床検査技師の紹介動画のリニューアル・季刊誌pipette配布施設の拡大などを行ってきた。本企画では、会員に日臨技が行っているこれら新しい広報活動についてご報告するとともに、今後活用していただきたい新しい広報動画も紹介する。また、都道府県技師会も様々な公益活動・広報活動を展開している。会報JAMTに取り上げた活動を中心に、都道府県の特徴ある活動を紹介する。

今後の課題としては、昨年会員に協力いただき実施した「令和5年度会員意識調査」の結果として出ているとおり、会員向けの情報が多くの会員の方々には活用されていない現状を改善することと考え、日臨技の活動を知っていただく広報活動を展開していくことを考えている。「会員とともに考え、会員とともに挑む」を実践する日臨技の活動にご注目いただきたい。